|  |
| --- |
| 環境影響評価方法書に関する意見書  〔対象事業の名称〕　2025年日本国際博覧会  〔意見を述べたいと思われる方に、○を付けてください〕  〇大阪市長　／　○事業者(公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会)  〔氏　名〕　薮田ゆきえ  〔住　所〕　八尾市末広町１－５－８  〔連絡先電話番号〕　（072）991―8377  〔周辺住民と参加者の安全の観点からの意見〕  はじめに  **アセスメントの調査項目について要望**  **南海トラフ地震が起こった時の対応を調査対象に入れてください。**  **理由**  今回の方法書には、南海トラフ地震について、起こった場合の予想が調査項目に挙げられていません。30年以内に７０～８０％の確率で起こると想定されている南海トラフ地震を万博環境アセスの項目に入れていない理由を説明してください。また、南海トラフ地震が起きた時の被害予想と、夢洲にいる人たちの安全をどう確保するのか、調査項目に入れてください。  **3、生活環境**  **現地調査の内容5～6ページ**  **意見①**  **湾岸周辺５区の大気汚染の状況をアセスしてください。**  **理由**  　2025年の大阪万博の予想人数は2800万人、1日平均16万人になります。構想では内陸に駐車場を設けてシャ トルバスで運ぶ手段を考えるとしています。 仮にすべてシャトルバス利用とすると、50人乗りバス乗車率70％として万博で9,500台という予想になります。大阪府は同時期に、万博に隣接するIRカジノへの集客を一日平均4万人と見込んでいますから、カジノで平均2350台になります。一部は鉄道輸送されるでしょうが、 それでも大量の自動車交通が生じます。夢洲と内陸とつなぐ道路輸送ルートは２本のみ、１つは夢舞大橋で舞洲経由して内陸へ、２つは夢咲トンネルで咲州経由して内陸へつながるルートです。 そして臨海5区（西淀川、此花、港、大正、住之江）の高速道路や幹線道路によって関西や全国につながります。IRカジノ・万博への流通輸送は全国各地から臨海５区に集中し、そこから夢洲に向かう流れになります。このことはIRカジノ・万博によって発生する交通量に応じて臨海5区の自動車交通量が増大し、 自動車排ガス汚染負荷が増大することを意味します。  　大阪市、とりわけ臨海５区は、かつて埋立て臨海工業や港湾開発に起因する大気汚染、 自動車排ガス汚染によって激甚な公害が引き起こされ、大阪市の全体の2倍以上の比率の1934人の方がぜんそくなどの公害で苦しんでいます。大都市比較統計年表2016によれば、大阪市は21大都市中最も大気汚染物質濃度が高い都市の１つです。その大阪市の中でも、臨海５区は大型車交通の割合が高く、NO2やPM2.5などの自動車排ガス汚染に見舞われています。湾岸５区は、万博開催中の乗用車、バスの集中でさらに大気汚染の悪化が予想されます。  **意見②大気汚染の調査個所を増やしてください。**  **理由**  2018年6月、「大阪から公害をなくす会」が初めて夢洲のNO2調査に取り組みました。30個のカプセルを設置した結果、平均は２８ppb～３９ppbでしたが、４０ppb以上も5ヶ所ありました。特にコンテナーヤードの周辺が４０ppb以上と長居公園郷土の森（１６ppb）の２倍もあり、汚染のひどい状況でした。WHOは2014年に、大気汚染が発がん性のリスクが明らかになったと発表しています。今回の万博の理念から見ても、大気汚染の被害についての調査を綿密にすべきです。方法書によると、調査箇所は、一般環境1地点、沿道環境3地点とありますが、各区で1地点での調査はあまりにも少ないのではないでしょうか。1地点でよいと判断した理由を教えてください。 |